

14時30分解禁

平成22年7月 全国百貨店売上高概況

平成22年8月19日

I. 概況

1. 売上高総額	6,002億円余
2. 前年同月比	-1.4% (店舗数調整後/29か月連続マイナス)
3. 調査対象百貨店	92社 263店 (平成22年6月対比-2店)
4. 総店舗面積	6,713,497㎡ (前年同月比: +0.3%)
5. 総従業員数	94,466人 (前年同月比: -3.3%)
6. 3か月移動平均値	12-2月 -5.4%、1-3月 -4.9%、2-4月 -4.2%、 3-5月 -3.1%、4-6月 -4.0%、5-7月 -3.1%

[参考] 平成21年7月の売上高増減率は-11.7% (店舗数調整後)

【7月売上の特徴】

29か月連続の前年同月比マイナスであるが、減少率は1%台('08年3月の-1.2%以来28か月ぶり)まで復調した。また、トレンドを示す3か月移動平均値も再び水準を戻している。

7月は、欧米の景気減速懸念を背景に円高・株安傾向が進む中、資産効果の減退によって宝飾品や輸入雑貨など一部高額商材の動きが鈍化した。中甸以降の猛暑でファッションを中心とした盛夏商材に動きが見られたほか、前半不調であった中元商戦も7月に入ってから前年並みにまで回復するなど、最終的には前月の足踏み状況を解消する結果となった。

具体的な動向としては、地域によって月前半の豪雨による客数減などマイナス要素がある一方、昨年の6月前倒しから今年は7月一斉スタートとなった夏のクリアランスセールが好調に推移したこと、月後半からの天候回復や土曜1日増の効果が入店客数を押し上げたこと、中元のネット受注は引き続き伸びを見せ二桁前後の増加で推移したこと、家庭回帰志向を背景に食器やキッチン器具などが大きく伸びたこと、売上計上方法の変更があった大阪地区では29か月ぶりに前年売上をクリアしたこと、などのプラス要素が報告されている。

【要因】

- (1) 天候：気象庁発表「7月の天候」の特徴は以下のとおり (一部抜粋)
 - ◇ 上旬は梅雨前線の影響で全国的に曇りや雨の日が多かった。中旬になると南から暖かく湿った空気が流れ込み、各地で大雨による浸水害や土砂災害が発生した。下旬は太平洋高気圧が張り出し各地で厳しい暑さが続いた。
- (2) 営業日数増減 30.9日 (前年同月比±0.0日)
- (3) 土・日・祝日の合計 10日 (" 土曜日1日増)
- (4) 入店客数増減 (回答店舗数で見る傾向値/前年同月比)
 - ①増加した：46店、②変化なし：36店、③減少した：51店、④不明：47店
- (5) 7月歳時記 (夏祭り/七夕・花火大会等、新暦お盆、夏休み) の売上 (同上)
 - ①増加した：13店、②変化なし：54店、③減少した：29店、④不明：84店
- (6) 翌月売上見通し (回答店舗数で見る傾向値)
 - ①増加する：18店、②変化なし：70店、③減少する：37店、④不明：55店

全国百貨店 売上高速報 2010年07月

第1表 地区別売上高

※店舗数調整後 ()が調整前

地 区	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率 (%) ※
全 国	600,224,080	100.0	-1.4 (-3.0)
10都市	392,982,905	65.5	-0.4 (-1.6)
札幌	14,423,300	2.4	-2.6 (-10.1)
仙台	8,499,249	1.4	-4.1
東京	146,862,007	24.5	-1.7
横浜	33,638,057	5.6	-0.6
名古屋	37,708,424	6.3	-0.8
京都	23,861,187	4.0	-0.1
大阪	77,973,585	13.0	2.7 (-1.9)
神戸	17,362,451	2.9	5.0
広島	15,399,963	2.6	-2.4
福岡	17,254,682	2.9	-1.1
10都市以外の地区	207,241,175	34.5	-3.3 (-5.5)
北海道	3,212,265	0.5	7.6 (-31.4)
東北	10,670,544	1.8	-3.5
関東	97,581,701	16.3	-3.3 (-5.9)
中部	16,542,334	2.8	-5.6 (-7.9)
近畿	18,770,652	3.1	-3.9
中国	14,246,728	2.4	-3.2
四国	11,882,686	2.0	-4.9
九州	34,334,265	5.7	-2.3

第2表 商品別売上高

商 品 別	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率 (%) ※
総 額	600,224,080	100.0	-1.4 (-3.0)
紳士服・洋品	38,002,158	6.3	-1.6 (-3.2)
婦人服・洋品	137,887,591	23.0	-3.7 (-5.1)
子供服・洋品	13,396,144	2.2	-3.7 (-4.8)
その他衣料品	15,808,540	2.6	-8.9 (-10.6)
衣 料 品	205,094,433	34.2	-3.7 (-5.2)
身のまわり品	70,455,453	11.7	-2.0 (-4.1)
化粧品	27,201,410	4.5	-1.1 (-2.1)
美術・宝飾・貴金属	24,351,467	4.1	-8.5 (-11.4)
その他雑貨	21,580,087	3.6	-3.8 (-6.6)
雑 貨	73,132,964	12.2	-4.5 (-6.7)
家 具	7,492,868	1.2	-9.3 (-11.4)
家 電	1,679,370	0.3	-7.0 (-7.7)
その他家庭用品	17,980,859	3.0	3.3 (1.8)
家 庭 用 品	27,153,097	4.5	-1.1 (-2.8)
生 鮮 食 品	38,962,658	6.5	0.5 (-0.3)
菓 子	43,116,824	7.2	0.8 (0.0)
惣 菜	32,438,492	5.4	-4.0 (-4.5)
その他食料品	76,833,925	12.8	5.9 (4.0)
食 料 品	191,351,899	31.9	1.9 (0.7)
食 堂 喫 茶	15,941,325	2.7	-3.8 (-5.2)
サ ー ビ ス	5,685,792	0.9	-3.0 (-4.1)
そ の 他	11,409,117	1.9	17.4 (16.9)
商 品 券	33,732,815	5.6	2.6 (1.8)

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。商品券は総額に含まれません。また、商品券の構成比は、総額に対する比率です。本統計には消費税は含まれておりません。

Ⅱ. 地区別の動き

- | | |
|------------------|---------------------------------------|
| 1. 10都市売上動向 | -0.4% (店舗数調整後／29か月連続マイナス) |
| 2. 10都市以外の地区売上動向 | -3.3% (// ／37か月連続マイナス) |

【地区別売上前年比の寄与度とトレンド】

地区	売上前年比	寄与度	トレンド
10都市	-0.4	-0.3	29か月連続マイナス
札幌	-2.6	-0.1	5か月連続マイナス
仙台	-4.1	-0.1	27か月連続マイナス
東京	-1.7	-0.4	29か月連続マイナス
横浜	-0.6	0.0	2か月連続マイナス
名古屋	-0.8	0.0	32か月連続マイナス
京都	-0.1	0.0	2か月連続マイナス
大阪	2.7	0.3	29か月ぶりプラス
神戸	5.0	0.1	2か月ぶりプラス
広島	-2.4	-0.1	29か月連続マイナス
福岡	-1.1	0.0	24か月連続マイナス
10都市以外の地区	-3.3	-1.2	37か月連続マイナス
北海道	7.6	0.0	14か月連続プラス*
東北	-3.5	-0.1	28か月連続マイナス*
関東	-3.3	-0.6	37か月連続マイナス
中部	-5.6	-0.2	28か月連続マイナス
近畿	-3.9	-0.1	28か月連続マイナス
中国	-3.2	-0.1	26か月連続マイナス*
四国	-4.9	-0.1	37か月連続マイナス
九州	-2.3	-0.1	35か月連続マイナス*

(注) 北海道、東北、中国、九州については、2006年1月からそれぞれ札幌、仙台、広島、福岡を10都市に移行したため(2005年までは6大都市)、連続性の観点から2007年1月からのトレンドとした。

Ⅲ. 商品別の動き

主要5品目では、食料品が3か月ぶりにプラス。マイナスは衣料品、身のまわり品、雑貨、家庭用品。その他家庭用品、菓子、その他食料品が3か月ぶりに、生鮮食品が18か月ぶりにプラスとなった。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比	寄与度	トレンド
総額	-1.4	—	29か月連続マイナス
紳士服・洋品	-1.6	-0.1	28か月連続マイナス
婦人服・洋品	-3.7	-0.9	37か月連続マイナス
子供服・洋品	-3.7	-0.1	23か月連続マイナス
その他衣料品	-8.9	-0.3	29か月連続マイナス
衣料品	-3.7	-1.3	37か月連続マイナス
身のまわり品	-2.0	-0.2	35か月連続マイナス
化粧品	-1.1	-0.1	20か月連続マイナス*
美術・宝飾・貴金属	-8.5	-0.4	41か月連続マイナス*
その他雑貨	-3.8	-0.1	32か月連続マイナス*
雑貨	-4.5	-0.6	29か月連続マイナス
家具	-9.3	-0.1	32か月連続マイナス
家電	-7.0	0.0	2か月ぶりマイナス
その他家庭用品	3.3	0.1	3か月ぶりプラス
家庭用品	-1.1	-0.1	4か月連続マイナス
生鮮食品	0.5	0.0	18か月ぶりプラス*
菓子	0.8	0.1	3か月ぶりプラス*
惣菜	-4.0	-0.2	26か月連続マイナス*
その他食料品	5.9	0.7	3か月ぶりプラス*
食料品	1.9	0.6	3か月ぶりプラス
食堂喫茶	-3.8	-0.1	24か月連続マイナス
サービス	-3.0	0.0	2か月連続マイナス
その他	17.4	0.3	4か月連続プラス
商品券	2.6	0.1	9か月連続プラス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化したため、2007年1月からのトレンド

平成22年7月 東京地区百貨店売上高概況

平成22年8月19日

I. 概 況

1. 売上高総額	1,468億円余
2. 前年同月比	-1.7% (29か月連続マイナス)
3. 店頭・非店頭の増減	店頭-2.1%(90.0%)：非店頭+2.0%(10.0%) ()内は店頭・非店頭の構成比
4. 調査対象百貨店	14社 27店 (平成22年6月対比±0店)
5. 総店舗面積	934,266㎡ (前年同月比：-1.3%)
6. 総従業員数	20,880人 (前年同月比：+11.9%)
7. 3か月移動平均値	12-2月 -6.5%、1-3月 -6.3%、2-4月 -5.4%、 3-5月 -4.0%、4-6月 -4.1%、5-7月 -3.0%

[参考] 平成21年7月の売上高増減率は-13.4% (店舗数調整後)

【7月売上の特徴】

- (1) 東京地区では紳士服売上が28か月ぶりに前年比プラスとなった。クリアランスセールが全般的に好調で、客単価を押し上げるまとめ買いの傾向が見られたほか、気温上昇に伴うクールビズ需要の高まりから、ワイシャツ等の関連アイテムも良く動いた。
- (2) 家庭用品については5か月連続で前年の売上実績をクリアした。これは食器や調理器具など、身近なアイテムの購入で気分転換を図ろうという消費者志向の高まりを背景に、都内各店で品揃えの強化が進められた結果、好循環が生まれていると分析できる。
- (3) 中元商戦の動向は、東京地区においても全国同様に6月前半戦の不振を7月後半戦で盛り返し、期間合計ではほぼ前年並みというパターンで推移した。具体的には、限定性・希少性の高い商材が好調であったほか、自家需要購入の比率も引き続き伸びている。
- (4) 梅雨明け以降の猛暑により好調に推移したアイテムとしては、「ゆかた」「水着」「帽子」「機能性肌着」「サンダル」「日傘」「サングラス」「UV化粧品」「冷感寝具」などのほか、食料品では「素麺」「ウナギ」なども報告されている。紫外線対策・熱中症対策への関心の高まりがあるほか、ゆかたについては再びブームの兆しが見られる。

【要 因】

- (1) 営業日数増減 31.0日 (前年同月比±0.0日)
- (2) 入店客数増減 (回答店舗数で見る傾向値/前年同月比)
 - ①増加した：7店、②変化なし：8店、③減少した：4店、④不明：3店
- (3) 7月歳時記(夏祭り/七夕・花火大会等、新暦お盆、夏休み)の売上(同上)
 - ①増加した：1店、②変化なし：7店、③減少した：5店、④不明：9店
- (4) 翌月売上見通し(回答店舗数で見る傾向値)
 - ①増加する：3店、②変化なし：12店、③減少する：4店、④不明：3店

東京地区百貨店 売上高速報 2010年07月

	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率(%)
総 額	146,862,007	100.0	-1.7
紳士服・洋品	10,938,989	7.4	0.7
婦人服・洋品	31,927,426	21.7	-5.3
子供服・洋品	2,376,027	1.6	-4.8
その他衣料品	3,383,225	2.3	-8.1
衣 料 品	48,625,667	33.1	-4.2
身のまわり品	19,359,841	13.2	-2.2
化粧品	6,757,307	4.6	-0.8
美術・宝飾・貴金属	6,357,024	4.3	-9.7
その他雑貨	6,729,289	4.6	-6.1
雑 貨	19,843,620	13.5	-5.6
家 具	2,311,198	1.6	-6.3
家 電	611,003	0.4	10.5
その他家庭用品	4,776,922	3.3	11.3
家 庭 用 品	7,699,123	5.2	5.3
生 鮮 食 品	6,317,372	4.3	0.2
菓 子	10,608,722	7.2	-1.0
惣 菜	7,305,269	5.0	-6.4
その他食料品	17,280,284	11.8	2.1
食 料 品	41,511,647	28.3	-0.6
食 堂 喫 茶	3,467,305	2.4	-11.4
サ ー ビ ス	2,274,074	1.5	11.8
そ の 他	4,080,730	2.8	43.7

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。
本統計には消費税は含まれておりません。

		対前年増減(-)率(%)
商 品 券	8,489,089 千円	47.5
従 業 員 数	20,880 人	11.9
店 舗 面 積	934,266 m ²	-1.3

営 業 日 数	31.0 日	前 年	31.0 日
---------	--------	-----	--------

Ⅱ. 商品別の動き

主要5品目では、家庭用品が5か月連続のプラス。マイナスは衣料品、身のまわり品、雑貨、食料品。家電が2か月連続のプラスとなり、紳士服・洋品が28か月ぶり、その他家庭用品が2か月ぶり、生鮮食品、その他食料品が3か月ぶりにプラスとなった。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比	寄与度	トレンド
総額	-1.7	-	29か月連続マイナス
紳士服・洋品	0.7	0.0	28か月ぶりプラス
婦人服・洋品	-5.3	-1.2	24か月連続マイナス
子供服・洋品	-4.8	-0.1	2か月連続マイナス
その他衣料品	-8.1	-0.2	27か月連続マイナス
衣料品	-4.2	-1.4	24か月連続マイナス
身のまわり品	-2.2	-0.3	28か月連続マイナス
化粧品	-0.8	0.0	20か月連続マイナス*
美術・宝飾・貴金属	-9.7	-0.5	2か月連続マイナス*
その他雑貨	-6.1	-0.3	26か月連続マイナス*
雑貨	-5.6	-0.8	27か月連続マイナス
家具	-6.3	-0.1	2か月連続マイナス
家電	10.5	0.0	2か月連続プラス
その他家庭用品	11.3	0.3	2か月ぶりプラス
家庭用品	5.3	0.3	5か月連続プラス
生鮮食品	0.2	0.0	3か月ぶりプラス*
菓子	-1.0	-0.1	3か月連続マイナス*
惣菜	-6.4	-0.3	28か月連続マイナス*
その他食料品	2.1	0.2	3か月ぶりプラス*
食料品	-0.6	-0.2	22か月連続マイナス
食堂喫茶	-11.4	-0.3	21か月連続マイナス
サービス	11.8	0.2	4か月連続プラス
その他	43.7	0.8	4か月連続プラス
商品券	47.5	1.8	12か月連続プラス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化したため、2007年1月からのトレンド

お問い合わせは、日本百貨店協会 森・西田・佐藤まで
TEL 03-3272-1666 ホームページアドレス <http://www.depart.or.jp>